UNISPACE+50

（6月18～21日,於ウィーン国際センター）

平成30年6月21日　外務省 宇宙室

1．会合の概要

●ソ連による世界初の人工衛星であるスプートニクの打ち上げ（1957年）の翌年の1958年に設けられた宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）は,宇宙の平和利用を旨とする宇宙条約の発効に当たり,その後の宇宙利用の在り方について議論すべく**「UNISPACE I」会合を開催（1968年）。**

同会合から50年を迎えるに当たり,これまで3回開催されたUNISPACE会合（1968年,1982年,1999年）を振り返りつつ,**宇宙の平和利用のための国際協力の将来について**検討する機会として,**①シンポジウム（18,19日）**,**②ハイレベル・セグメント（20,21日）**,**③会場内展示**を開催。

●ハイレベル・セグメント会合冒頭,議題となった宇宙の平和利用のための**国際協力の方途**や**COPUOSや国連宇宙部（UNOOSA）の果たすべき役割**等について記した,**「UNISPACE+50決議」（副題：持続可能な開発の原動力としての宇宙）**を**エンドース**。同決議案は今秋の国連総会に提出される。また,同決議案を踏まえ,今後のCOPUOSにおいて,SDGs達成等を含めた将来の宇宙の側面からの取り組みをまとめる「宇宙2030」アジェンダの策定作業を行っていく。

●ハイレベル・セグメントは,COPUOS加盟国（87）だけでなく全国連加盟国を始め,宇宙に関係する国際機関や非政府主体を招待。**閣僚級（14名）**,**宇宙機関の長（10名）**を含む,**70を超える国・機関等が参加**。

●我が国から北野充在ウィーン日本政府国際機関代表部大使が団長を務め,外務省,文科省,内閣府（宇宙開発戦略推進事務局）,JAXA関係者他が出席。山川宏JAXA理事長がハイレベル・セグメントに登壇。

※我が国のステートメントの概要（6月20日,山川宏JAXA理事長）

●我が国として,スペースデブリ対策を含め様々なビジネスが生まれる中で,民間を含め様々な主体と協力しつつ,**更なる国際宇宙協力を進めていく**旨,またそのためにも,交渉中の「宇宙活動の長期的持続可能性**（LTS）に関するガイドライン」の妥結**を呼びかけ。

●今年3月に東京で開催した国際宇宙探査に関する国際会議**（ISEF2）の成果を紹介**。**国際保健分野**における**ポリオの撲滅**のためのJAXAとWHOとの協力や,**低排出社会に向けた取組**としてパリ条約の実施に当たりNASAをはじめとする**宇宙機関との協力**,**KiboCUBE**をはじめとした**能力開発**の取組を紹介。

2．UNISPACE+50における日本関連の発信

①

②

③

①ハイレベル・セグメントにおける**山川宏JAXA理事長**による日本のステートメント

②シンポジウムには,**岡田アストロスケールCEO**（6月20日「宇宙と産業」右から2人目）,③**佐々木JAXA宇宙教育推進室計画マネージャ**（6月21日「宇宙と若者」一番右）がそれぞれパネリストとして登壇。③**小島国連宇宙部エキスパート**が「宇宙と若者」セッションのコーディネーターを務めた（中央）。

④

⑤

⑥

⑦

④会場内の展示ブースにおける日本企業（**ispace社**）による出展。

⑤JAXAが,国連宇宙部の協力の下実施している**「KiboCUBE」プロジェクト**について,多数の応募の中から第3回放出国を**モーリシャス**に決定し公表,また,同プロジェクトの延長（2021年3月まで）に係るMOUを締結。

⑥ハイレベル・セグメント中,**国際宇宙ステーション（ISS）「きぼう」日本実験棟との交信セッション**を実施。

⑦我が国（文科省・JAXA）とアジア太平洋諸国の宇宙機関との間の協力枠組みであるAPRSAF（アジア・太平洋地域宇宙機関会議）がESPI（欧州宇宙政策研究所）において,社会経済開発に向けたシンポジウムを実施。